

みどり市立東中学校

令和元年12月6日

学校だより

第 29 号

AZUMA JUNIOR HIGHSCHOOL NEWS

地域貢献活動

期末テストが終わった11月29日(金)、5・6校時を使って東中恒例の地域貢献活動の一つ、わたらせ渓谷鐵道の駅清掃を行いました。

「東誇(アズマプライド)」ののぼり旗や掃除道具を持って学校を出発した生徒たちは、最寄り駅を中心に4班に分かれ、花輪・小中・神戸・沢入の4駅を掃除しました。駅舎周辺やホームや階段などの落ち葉を掃いたり、トイレの掃除をしたり、待合室のベンチを拭いたりと限られた時間の中でしたが、生徒たちは積極的に活動していました。

花輪駅では、地域の方も活動に協力してくださいました。「12月1日はわたらせ渓谷鐵道の各駅でイルミネーション点灯式があり、その後お客様が増えるのでとてもありがたい。」とおっしゃっていました。



校長室から



3日（火）の全校朝礼では、次のような話をしました。

少し前に、こんなニュースが目にとまりました。「小学校など学校への通学が認められなかった66歳の男性が、小学校で児童と授業や給食をともにし、念願だった学校生活を60年ぶりに体験した」というものです。

この男性は重度の障害をもっているため車椅子で生活しています。今から40年ほど前までは、重度の障害を持った方たちは就学猶予とみなされ本人や家族の希望とは関係なく、教育を受ける権利を奪われていました。お母さんにおんぶしてもらって、兄弟の授業参観などに行っていたとのことですが、この方はどんな気持ちでお母さんの背中越しに学校の様子を眺めていたのでしょうかね。

当時、ほとんどの学校には、エレベーターやスロープが設備されておらず、玄関にも段差があり、トイレも和式。車椅子で活動する方にはとても不便であったと思います。その状況を考えると「重度の障害を持った子どもたちは学校にいかなくてもいい」というのは優しさ・・・なのでしょうかね？

似たようなことは今の私たちの周りでもあります。手を怪我してしまった子に「掃除しなくていいよ」、足を怪我してしまった子に「何もしなくていいから座ってて」。できないだろうからしなくていいというのは、本当の優しさでしょうか。もしかしたら、本人はやりたい、できることはしたいと思っているかもしれません。大切なのは本人がどうしたいかという気持ちと、周りがどんなことに気をつけなければならないのかを確かめることなのではないでしょうか。

車についてちょっと考えてみましょう。今は技術が進んで、片手だけでも運転できる車が開発されています。こんなマークを見たことがありますか。これは聴覚に障害のある人が車を運転するときにつけるマークです。どれも「車を運転したい」という気持ちに込めて工夫されたものです。

世の中には健康な人ばかりでなく、身体に何らかの不自由を抱えている人や年をとった人など、さまざまな人が一緒に生活しています。「大変だからしないでいいですよ」「私がしてあげるからいいですよ」こんな言葉ばかりの優しさいいのでしょうか。みんなが心豊かに暮らせるとはどういう社会なのでしょうかね。

大切なのは、周りの人に目を向け、何に困っているのか、どう手助けしてほしいと思っているのかに気付き、自分がすべきことを考え、行動に移すことです。そうすれば、みんなが心豊かに暮らすことができるのではないのでしょうか。学校の中でも同じことが言えると思います。

ひとり一人の人権を守るということは、みんなが普通に生活できる権利を守ることです。まずお互いをよく知りその個性を認め合うこと、困っている部分を補い合い助け合うこと、許し合うこと、そして思いやることが大切です。

12月10日は世界人権デーです。これに合わせ東中では昨日から人権週間とし、いろいろな活動を予定しています。人権週間では、皆さん一人一人が人権について真剣に考える期間であってほしいと思います。そして東中がより一層、相手のことを考えた行動のできる、みんなが心豊かに生活できる空間となることを期待しています。